

## 第8回新公立岩瀬病院改革プラン評価委員会会議録（概要）

- I. 日時 令和3年8月5日（木）  
13:30～14:10
- II. 場所 公立岩瀬病院 外来棟会議室（3階）

### III. 出席者

#### 【委員】（9名）

（出席委員 7名）

須賀川市社会福祉協議会会長	溝井正男
須賀川医師会会長	國分啓二
須賀川歯科医師会会長	佐藤裕行
須賀川薬剤師会会長	細井正彦
鏡石町健康推進員会会長	皆川桂子
天栄村国民健康保険運営協議会会長	小針光治
玉川村国民健康保険運営協議会会長	鈴木一夫

（欠席委員 2名）

須賀川青年会議所元理事長	相楽祐也
須賀川市健康づくり推進員会会長	相楽栄子

#### 【公立岩瀬病院企業団】（5名）

企業長	宗形 充
院長	土屋貴男
事務長	塩田 卓
看護部長	伊藤恵美
参事兼医事課長	有賀直明

#### IV. 会議

##### 1. 宗形企業長あいさつ

皆さん、こんにちは。

本日は、溝井会長をはじめ委員皆様方には、「第8回公立岩瀬病院改革プラン評価委員会」を開催いただきましたこと、御礼を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の対策のため、昨年度の第6回、第7回は書面審査の形で評価をいただきましたが、令和2年度決算の概要を含めて計画期間4ヶ年間の実績をご報告させていただくため、任期を延長させていただき、本日、開催いただいております。特段のご理解をお願いいたします。

当評価委員会は、令和2年度を最終年度とする4ヶ年計画の病院運営指針である「新公立岩瀬病院改革プラン」について、この取り組み状況の点検及び評価並びに今後の病院経営のあり方などについてご意見やご提言をいただき、今後の病院経営の改善を図るため設置したものであります。

「新公立岩瀬病院改革プラン」には、県において推進している地域医療構想を踏まえた当院の果たすべき役割として「地域包括ケアシステムの中心的な役割を担い、専門性の高い医療を提供する急性期機能を病院機能の中軸」とし、その実現に向けて「急性期病院として質の高い医療を提供すること」、「地域医療支援病院を目指すこと」、「救急医療の確保」、「周産期医療の提供」、「回復期医療、在宅医療の提供」などを掲げており、計画期間中、これらの実現に向けて取り組んできたところであります。

それでは、改革プラン最終年度となる令和2年度決算の見込みにつきまして概要を申し上げます。令和2年度の実績として、入院患者数は62,320人で、前年度比12,415人の減、（病床稼働率61.2%）、外来患者数は85,255人で、前年度比6,835人の減となり、それぞれ前年度実績を大きく下回る結果となりました。

どちらも新型コロナウイルス感染症の影響などにより、患者数が減少したものとみられ、この結果、医業収益の合計額は、対前年度比4億6,855万円余の減となる51億3,223万円余となったところであります。

一方で、医業費用決算見込額は、コロナ対応経費などがかさんだことから、前年度比9,784万円余の増となる59億5,464万円余となり、医業損益段階で

8億2,240万円余の損失計上となりました。

医業外損益では2億8,094万円余の収益を見込んでおり、これを加えた経常損益段階では5億4,146万円余の損失となり、こちらもこれまでにない大幅な損失計上となる見込みです。

なお、今期決算では、感染症対応の補助金などを特別利益として計上する予定であり、最終の年度純損益は、利益計上となる見通しですが、本業の儲けを示す医業収益は非常に厳しい状況であります。

幸い今年度に入り、患者数の回復傾向が続いており、コロナ禍にあっても地域の中核的公的医療機関として、しっかりと役割を果たしながら、経営改善の歩みを着実に進めてまいりたいと考えております。

今後とも診療体制の強化・充実をはじめ、救急医療の地元引受率の向上、地域医療連携による紹介・逆紹介の推進、更には安定的な黒字基調の病院経営をめざして、一層取り組みの強化を図りながら、地域の皆様に信頼される病院づくりに職員一丸となって取り組んで参りますので、委員皆様の特段のご支援・ご指導をお願いいたします。

本日の議題につきましては、新公立岩瀬病院改革プラン進捗状況報告となっております。詳細はこの後、事務長から説明申し上げますので、委員の皆様方には忌憚のないご意見をお願い申し上げます。

## 2. 議題

### (1) 新公立岩瀬病院改革プラン進捗状況報告

「新公立岩瀬病院改革プラン進捗状況報告書」で報告説明

### (2) その他

## 3. 質疑・意見等

○委員；内視鏡検査の件数が増加している理由を伺いたい。

●当局；内視鏡件数増加の要因としては、消化器内科医師が増員したのが1つ目の要因だと考えます。今年度から副院長も兼任している片倉響子消化器内科部長が、一昨年に当院へ着任しております。

もうひとつの要点としては、片倉副院長の着任により、指導体制が充実した

ため若手医師派遣となった事や、取り扱える疾患が増加した事で、内視鏡検査の幅も広がり、件数が増加したと考えます。

○委員；新型コロナウイルス陽性の患者の受け入れ等により、入院病床数も限られた中での診療となっていると思うが、このコロナ禍が続く中で、今後どのようなところに力を入れて診療や病院運営を行っていくのか伺いたい。

●当局；まず1つ目としては、救急車をできるだけ受け入れられる体制を整え、救急受入件数を増加していきたいと考えております。令和2年度は、救急受入件数が954件と大きく減少してしまいました。これは、新型コロナウイルスの行政検体採取時に、救急車の受け入れを制限していたことが大きな要因となっています。今年度からは、病院全体として救急車を受け入れるという方針で、行政検体採取時にも救急車の受け入れを制限せずに運用をしております。その影響もあり、今年度になってからは、ひと月に100件近くの救急車の受け入れができるようになってきております。

2つ目としては、質の高い医療、特にがん治療に力をいれていきたいと考えております。当地域でも死因1位はがんであることから、地域の皆さまに少しでも安心していただけるような、がん治療を提供してまいります。先程もありました内視鏡検査件数の増加により、消化器外科への紹介につながる疾患も増えており、引き続き質の高い医療を提供できるように心掛けてまいります。

また、新型コロナウイルス感染症についても、当地域では当院が頑張っているかなければならないという覚悟を持っていますので、コロナ終息までは、引き続き職員一丸となってコロナ対応にも力をいれていく所存です。引き続きご支援等よろしく願いいたします。

○委員；口腔ケア嚥下センターの稼働状況について伺いたい。

●当局；口腔ケア嚥下センターは、三浦名誉院長を中心としたチームとして活動しております。外来は紹介患者のみの診察となっており、入院患者の嚥下の評価や口腔ケアを中心に行っております。術前の口腔ケアについては、当院でも実施していますが、地域の歯科にも依頼している状況です。現在は、新型コ

コロナウイルス感染患者の増加に伴い、口腔ケア嚥下センターの紹介患者受入れを一時中断しております。

○委員；入院患者に対する奥羽大学による歯科の訪問診療を行っていると思うが、現在の状況について伺いたい。

●当局；奥羽大学による歯科の訪問診療についても、新型コロナウイルス感染拡大により昨年度から中断しております。状況が落ち着いたら、再開していきたいと考えております。

○委員；実績推移をみると平成29年度、30年度と経常収支比率の項目などで最終目標の数値を達成しているが、令和元年度、2年度と新型コロナの影響を受けなかったら、5年間の推移で多くの項目で目標を達成できていたかどうか、推測でよいので伺いたい。

また、新型コロナウイルス感染症の影響での診療控えに関して、公立岩瀬病院が感染症指定病院のため、他の病院よりも影響が大きかったのか伺いたい。

●当局；平成29年度、30年度と経常収支比率で100%を上回っていましたが、新型コロナが流行してからは、その影響がとても大きく、経常収支比率も100%を下回ってしまいました。それまでの病院の状況で考えると、新型コロナの影響がなければ、目標は達成できていたと考えられます。

また、診療控えに関しては、全国的にどこの医療機関でも同じような影響を受けていると考えます。ただ、当院は感染症指定病院ということで、国内で感染者が発生した早い時期から入院の受け入れを行ったため、患者数減少などの影響を早い段階から受けていたこととなります。ただ最近、外来患者数もコロナ禍以前の数値まで戻ってきております。

#### 4. 閉会